

体験活動推進プロジェクト  
防災キャンプ推進事業

防災キャンプ2013in京都

京都府教育委員会

【事業のポイント】

- 防災への理解の向上
- 防災意識の醸成
- 自然災害に関する基礎的な知識の習得
- 過去の災害についての理解と府の対応についての学習
- 災害発生時の適切な対応等への理解とスキルの向上
- 防災に関するさまざまな体験活動の実施
- 国土交通省や防衛省・自衛隊等関係機関と連携したプログラムの実施
- 消防署や婦人会等地元関係機関や組織と連携したプログラムの実施
- 学生ボランティアの協力を要請



水害を防ぐ実験・観



避難所設営・生活体



AEDを使った心配蘇生



水中歩行体験



炊き出し体験



応急担架の作成と演

1. 企画

(1)事業実施の背景

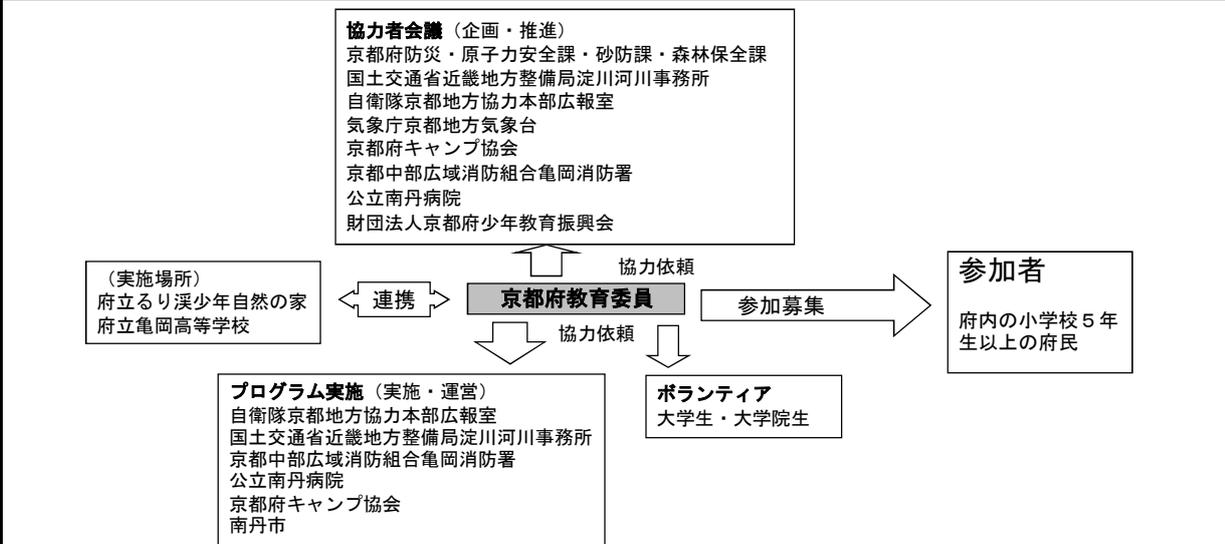
京都府においては、平成24年8月に局地的豪雨に襲われ、府南部を中心に土砂災害や河川の氾濫が発生、建物が流されるなど被害が発生した。また、平成16年の台風23号では、死者15人、負傷者202人、全壊26棟、半壊328棟、床上浸水2726棟の大きな被害が発生している。そのような中、「風水害への積極的な対応を学ぶ」をテーマに、連携先やプログラムの内容、指導体制等をより充実し、府民の防災に対する関心を高め、風水害に対する対応力を高めるために実施する。

(2)ねらい

本事業では自然災害に関する基礎的な知識を習得し、災害発生時の適切な対応等への理解を深めるとともに、生き抜く力を育成するために様々な体験をすることとした。さらに参加者の防災意識の向上を図ることも目的とした。

2. 事業概要

(1)運営体制

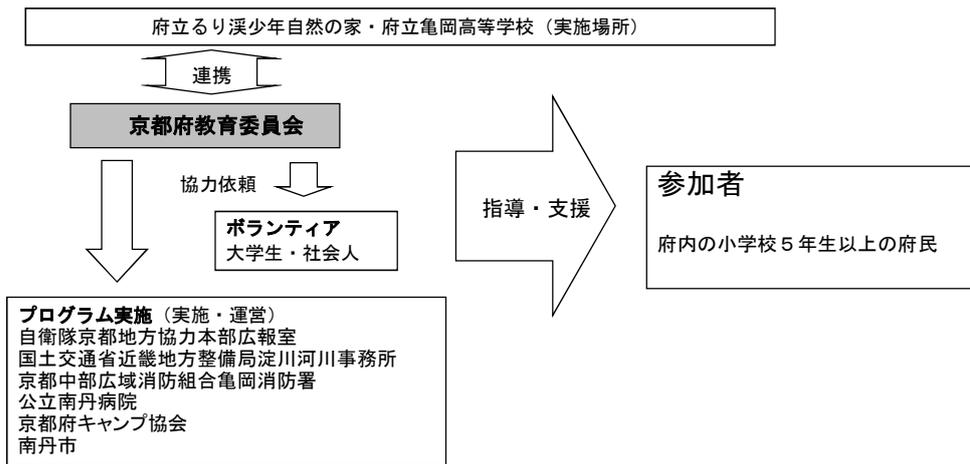


(2)開催実績

月 日	内 容
5月	事業日程の調整及び運営体制の検討、協力者調整
7月～8月	プログラム担当者と日程及び活動内容を調整
8月29日(木)	府立亀岡高等学校・り湫少年自然の家と会場設営・準備物について調整会議
9月6日(木)	防災キャンプ2013in京都 第1回協力者会議及びボランティア事前研修
9月14日(土)	防災キャンプ2013in京都実施(1日目)
9月15日(日)	防災キャンプ2013in京都実施(2日目)
9月16日(月・祝)	防災キャンプ2013in京都実施(3日目)
1月22日(水)	防災キャンプ2013in京都 第2回協力者会議

### 3. 防災キャンプ実施概要

#### (1) 運営体制



#### (2) 開催実績

日時	プログラム	プログラム詳細
9月14日(土)	防災キャンプ(1日目)	
	活動1 府内の風水害についての講義と実験・観察 	◇講義・実験「水害と土砂災害の起こるしくみ」 京都府建設交通部砂防課 天羽 勝巳 氏 京都府農林水産部森林保全課 西 貴詩 氏 築山 重信 氏 ・京都府の過去の水害と被害状況について ・土砂災害の種類と起こるしくみ ・防災情報の入手方法について ・スリットダム等の設置と水害(実験・観察) 
	活動2 パーテーションを作成及び避難所体験 	◇プレイホールに段ボールを使ってパーテーションを作成 ・基本的な使い方、作成の仕方等自然の家職員が指導 ・通路と生活する場所を決め、参加者で相談して設営 ・消灯後は、懐中電灯等のみを使い、情報は携帯ラジオで取得 ・1泊目の反省を活かして、2泊目を体験
	活動3 非常食体験①(備蓄パン・水) 	◇支援物資が到着！を想定して支給 ・並んで順に支給 ・備蓄パン2個と水のみ支給 
	活動4 被災体験談① 	◇24年8月府南部豪雨により宇治市で被災した方の体験談 
9月16日(日)	防災キャンプ(2日目)	
	活動1 非常食体験② アルファ化米 	◇アルファ化米を調理 ・お湯を入れて15分、水なら60分で完成！ 
	活動2～5 (グループに分かれて順に体験) ① 消防署によるAEDを使った心肺蘇生法 三角巾を使った応急手当の演習 	◇府立亀岡高等学校で、4つの体験活動を実施 ・日帰り参加可、高校生も参加 ・2人組になり、救急車を呼ぶまでの演習 ・心臓マッサージ、人工呼吸、そしてAEDを使った演習 

<p>② 国土交通省近畿地方整備局淀川河川事務所による「水中歩行・水没ドア開閉体験」</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・洪水時を想定し、30cmの泥水をはったところを長靴で歩行</li> <li>・底にはいろいろな障害物が設置され、歩きにくい状態を演出</li> <li>・ミストシャワーを大型扇風機で飛ばし、暴風雨を作成</li> <li>・前に進めない急な流れのあるコースも体験可</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家のドアの外まで水が迫ってきた時を想定</li> <li>・外の水量によって、ドアが開けにくくなり、開けると大量の水が流入</li> </ul> 
<p>③ ペットボトルを使い災害時に役立つグッズを作成</p>  	<p>◇京都府キャンプ協会の指導員による</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・停電時に役立つランタンづくり</li> <li>（はさみ、ろうそく、くぎ、きり）</li> <li>・食器づくり・スプーンづくり</li> </ul>  
<p>④ 非常食体験③</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・水・ガスを使わない食事を体験</li> <li>・昼食メニュー：牛丼とご飯、缶入りパン</li> </ul>  
<p>⑤ 災害に関する学習DVD鑑賞</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・気象庁作成のDVDを使って、防災についての意識を高揚</li> </ul> 
<p>活動5 給水体験</p>  	<ul style="list-style-type: none"> <li>・南丹市の給水車から給水</li> <li>・ボール、給水タンク、段ボール箱にビニール袋をかぶせた簡易バケツ等身近なものに給水する。</li> </ul> 
<p>活動6 給水車の水を使って屋外炊飯場で夕食作り</p>  	<ul style="list-style-type: none"> <li>・素材ごとに班をつくりカレーを調理する。(炊き出し体験…提供者)</li> <li>・炊飯袋を使ってご飯をたく。</li> <li>・食器はペットボトルで作ったものにラップを巻いて使用</li> </ul> 
<p>9月17日(月・祝)</p>	<p>台風18号による特別警報発令 予定を変更して実施</p>
<p>防災キャンプ(3日目)</p> <p>活動1 屋外炊飯場で朝食作り</p>  	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ロールパンをアルミ箔で巻き、牛乳パックに入れて火をつけて加熱調理</li> <li>・オーブントースターは無くてもパンが温められることを体験(カートンドッグ)</li> <li>※ 野外炊飯場が使えないため、温めずに作成</li> </ul> 
<p>活動2 応急担架の作成及び演習</p>  	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自衛隊の指導により、毛布や衣服を使った担架を作成</li> <li>・担架を使って人を運ぶときの注意点を学習</li> <li>※ 土のう作成及び積み演習については、屋外に出られないため中止</li> </ul> 
<p>活動4 炊き出し体験</p>  	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地元婦人会と自衛隊が協力して準備。(豚汁・おにぎり)</li> <li>※ 地元が被災し参加できず、参加者で昼食を作成</li> </ul>  

#### 4. 普及啓発の実施概要

##### ○参加者募集について

- ・チラシ(府内全小中学校5年生以上の全児童生徒、市町(組合)教育委員会、教育局、広域振興局、図書館等)を配布するとともに、京都府教育委員会社会教育課HPに掲載
- ・株式会社ファミリーマート(府内全209箇所)に設置
- ・京都府防災訓練で啓発

##### ○啓発広報紙の作成と配付(計画)

- ・防災教育ニュース(A4判4ページ)10万部を作成、小・中・高等学校等、児童・生徒をはじめ、社会教育団体、社会教育施設等に配付予定

#### 5. 成果と課題

##### (1) 事業成果

##### ○成果

- ・避難所体験では、パーテーション設営から就寝まで、参加者が自ら考え実際にこのような場面ではどういったことに困るのか、どのような気持ちが生じるのか等、実感できるプログラムとして大変よかった。また、2泊することで1泊目の反省が生かされたり、この生活が長期になればと想像したり、避難所を身近に感じる機会となった。
- ・水没ドア開閉体験では、「20cmの水でドアが重たく開かない。開けたら家に大量の水が入ることなど、体験してみて、実感することができた。」という声を多数聞くことができた。
- ・消防署の救急法については、初めての方も、何度も経験されている方もあったが、何度も繰り返し訓練することが重要であると熱心に取り組まれていた。
- ・キャンプ協会のランタン作りは、非常時(停電時)に役立つものとして、こんなに簡単に作ることができると、参加者、高校生にも大変好評であった。また、ペットボトルを半分に切った食器もサランラップを引いて利用することで、洗う必要がなくなることに参加者は感心していた。さらに、断水状態での生活としてサランラップを使った食器が大変有効であることを被災体験談でも聞くことができ、より実感がわく取組となった。
- ・府立亀岡高校での開催は、100名を越える高校生の参加があったことは大変よかった。中・高生が、防災について学ぶということは、とても大切なことであると考えます。

##### ○参加者の声

- ・応急手当等も教えてもらい大変勉強になった。
- ・何気なく使っている水や食べ物や住まいが本当に大切なものだ実感した。
- ・今回は寝るところが広がったが、実際にはもっと狭い場合もあると考えると本当に大変だと思った。
- ・災害はすごく怖いということ、防災はとても大切だということがわかった。
- ・今の時代だからこそ、空腹体験も重要なことだと思った。
- ・防災の知識が少しでもあると落ち着いて対応できると感じた。
- ・実際に近い過酷な2泊3日で戸惑ったが、特別警報発令での待機など貴重な体験ができた。
- ・非常に良く計画されたプログラムで、安全に体験することができた。
- ・実際に特別警報が発令され、情報がなかなか入りにくい事を知るとともに、不安が募ることも実感できた。

##### (2) 事業運営上の課題・留意点

##### ○課題

- ・予算の関係からも参加者数に制限があるため、募集・広報の範囲や程度については難しく、今年度は、2回目の開催ということで少し周知・啓発の機会を縮小した。結果的に予定では60人程度の宿泊者を見込んだが、40人の応募となったため、募集途中での広報活動について検討する必要がある。
- ・プログラムの内容によっては、子どもと大人を分けて行った方がより効果的なものがあった。(講演・講義・被災体験談等)
- ・事業に関わった様々な機関や協力者、準備物提供者とのつながりを継続し今後の土地組に活かしていくことが大切である。

##### (3) その他

プログラムや日程等については、本府の災害の状況を踏まえて、より現実的な防災に対する対応力を身につけられるよう、工夫した内容で実施する。

#### 4. 団体プロフィール

〒602-8570  
京都府京都市上京区下立売通新町西入藪ノ内町  
京都府教育庁指導部社会教育課

TEL 075-414-5886  
FAX 074-414-5888  
URL <http://www.kyoto-be.ne.jp/syakyou/>



京都府庁(旧本館) 国の重要文化財